

東日本大震災の復興支援への取組み状況の報告

報告日：平成 23 年 5 月 31 日

支部・部会・実行委員会・登録グループ名

原子力・放射線部会

責任者名 / 報告者名

林 克己 / 林 克己

取組みの状況（検討状況、予定等含む）2,000 字以内

1. 現在までの取組みについて

3 月 11 日の東北地方太平洋沖地震に伴う福島第一原子力発電所事故は、現在衆知を結集して安定化と放射性物質拡散防止に向けた作業を進めており、部会員の大多数がその所属組織において直接間接に取り組んでいる。

部会としては懸命な事態収束に係る部会員の業務が最重要であると認識している。これと共に、部会には（適切な時期の）技術解説などが期待されている。

(1) 部会ホームページ【放射線測定情報とリスク情報】掲載と充実

地震後 5 日目には部会員によって放射線測定情報とリスク情報に関して一般市民向け原稿が用意され 6 日目には部会 HP に掲載された。また 10 日目には情報充実を行なった。

(2) 「福島対応WG」を設置

部会としての活動を進めるために「福島対応WG」を設置し 2 回（4/19、5/20）行ない、当面の活動項目を議論し設定した。

(3) 部会員の対応可能性アンケート調査

4/22 に「福島第一原発事故対応への協力アンケート」を発信し 25 名の部会員から協力可能との連絡を受けた。

(4) 外部機関との連携

外部機関からの部会への要請に対し参加できる部会員を募って協力した

- ・原子力学会の Q & A、質問対応者（3 名が実施中）
- ・中小企業庁から放射線の風評被害対策として、線量測定他の協力依頼（5 名協力）
- ・周辺自治体からの要請（調整中）、モニタリングデータ可視化協力など

2. 今後の部会としての取組みについて

(1) 部会ホームページ【放射線 Q & A リンク集】の準備

一般市民向けにはすでに多くの学協会が HP、ML など情報提供を行っている。放射線に関する情報提供の第 2 弾として「放射線 Q & A リンク集」の制作にかかっている。

(2) 部会員の活動記録

現在の喫緊の作業に係っている部会員には専念していただくとともに、その記録を残していただくことも検討している。部会員のチャンネルがうまく利用できた例も出ている。

(3) 「福島対応WG」での活動項目検討と実施継続